

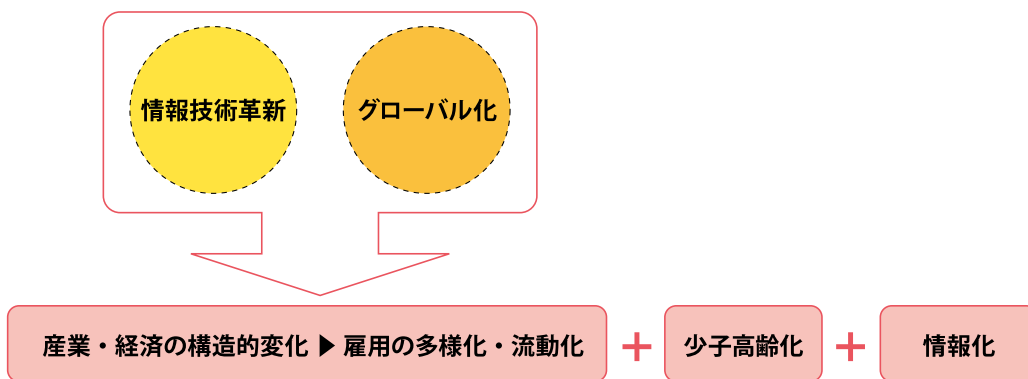
# 1 キャリア教育について

## 1 | キャリア教育の背景

20世紀後半に起こった地球規模での情報技術革新により、社会・経済のグローバル化などが進みました。そして、日本社会も大きな影響を受け、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化などに繋がりました。

これからの日本では少子高齢化や情報化等がさらに進むと考えられ、このような社会環境の変化が、子どもたちの成育環境や意識等を変化させると同時に、子どもたちの将来にも大きな影響を与えられます。

これからも変化しつづける社会の中で、子どもたちが、希望をもって、自分の未来を切り拓いていけるよう、変化を恐れず、変化に対応してだけでなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立し、次代の社会の担い手となっていくことができるような「生きる力」が求められます。

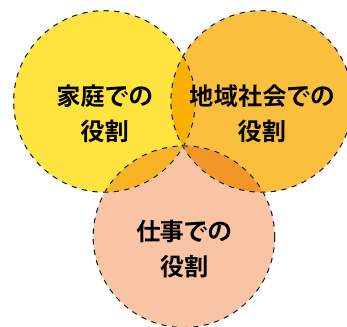


## 2 | キャリア発達とは

### 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

【出典：平成23年1月、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」】

「キャリア」という言葉の語源は、ラテン語の carrāria(馬車などの乗り物が通ったあとにできる車輪のわだち)です。これが、「人が生きていく中での足跡」へと転じ、やがて「人が生きていく中で担っていく様々な役割(家庭での役割、地域社会での役割、仕事での役割など)・仕事などの足跡」を意味するようになりました。人は様々な役割を果たしながら活動することを通して、他者や社会と関わり、その関わりの積み重ねが「自分らしい生き方」となっていきます。



## 3 | キャリア教育とは

### 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

【出典：平成23年1月、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」】

キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成をめざす教育的働きかけです。子どもたちが未来を切り拓く力を身につけるための教育、職業的・社会的に自立することを支援する教育が求められています。

## 4 | キャリア教育で育む力とは

キャリア教育で育む力として、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会は「基礎的・汎用的能力」として4つの能力を示しています。これをふまえ、大阪府は5つの「つけたい力」を示しています。こういった力を基本にしなが、各地域の子どもたちの実情に合った力を考え、育んでいくことが大切です。

### ■ 基礎的汎用的能力（文部科学省）

#### A. 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

#### B. 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

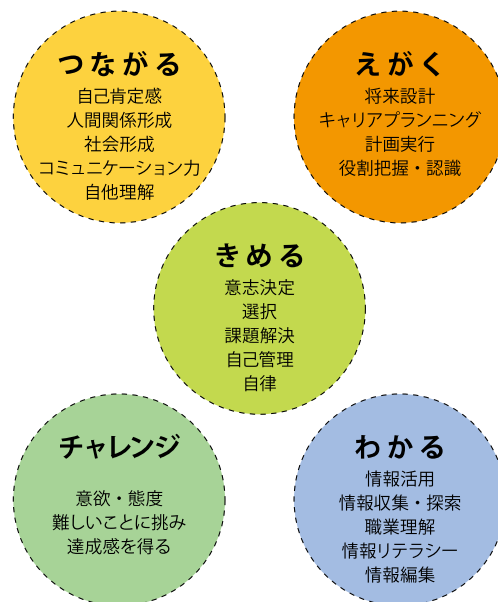
#### C. 課題対応能力

仕事を上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

#### D. キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

### ■ 子どもにつけたい力（大阪府）



## 5 | キャリア教育によって期待できる効果（メリット）

### ① 教職員・学校にとっての効果

「めざす子ども像」や「全体指導計画」等を同じ中学校区の関係者が共に意見を出し合って考え、共有することで、子どもの将来を見据えた「共通の視点・軸」ができます。指導方法や対応に共通の視点・軸ができることで、教職員間のコミュニケーションが円滑になり、取組みの教育効果を高めることができます。

また、様々な教育活動の位置づけが明確になり、キャリア教育に関連する取組みの整理(場合によっては統合、拡充)につながります。これによって、児童生徒の発達段階に応じた、適切なキャリア教育を実施することができ、取組み全体の効果を高めることができます。

### ② 児童生徒にとっての効果

キャリア教育により、前述の「キャリア教育で育む力」のほか、学校等で学ぶことが「将来」や実際の「社会」にどのようにつながるか実感しやすくなります。それが将来への展望や、学ぶ意欲の向上につながります。また、自立した生活習慣や学習習慣を身につけることにもつながると考えられます。

また、進級・進学をしても、どの教職員も共通の視点・軸で指導ができるので、進級・進学に伴う段差を意識せずに円滑なスタートを切ることができます。

### キャリア教育コーディネーターとは

キャリア教育の効果を高めるためには、体系的なカリキュラムが不可欠です。また、教職員間・学校の連携はもとより、地域の保護者、住民や企業など様々な背景を持つ人たちと協力する機会が多くなります。

キャリア教育コーディネーターは、こういったカリキュラム開発や連携に関する研修を積み、一定の知識とスキルがあることを認められた、キャリア教育の専門家です。効果的なキャリア教育の実践に必要な様々なノウハウやネットワーク(組織や人とのつながり)を有しています。そういったノウハウ・スキルを生かして、各地域のニーズ(要望)をふまえ、キャリア教育の研修やカリキュラム・プログラムの開発や実践、連携支援など、キャリア教育の質・効果を高めるために必要なあらゆる支援をします。

キャリア教育に関する研修企画・実践

校種間・企業との連携支援

キャリア教育のプログラム開発・実践支援

カリキュラム開発支援・アドバイス

# 2 大阪府のキャリア教育

2

大阪府のキャリア教育

大阪府教育委員会では、平成17年4月に「キャリア教育を推進するために」（指針）を策定しました。

この中で、大阪の子どもたちの課題について、直接的な体験や集団活動の機会の減少や、家庭・地域の教育力の低下に代表される子どもたちを取り巻く環境の変化などを背景として、コミュニケーション能力や規範意識が希薄であり、自ら生き方を決定する力の未形成であることをあげました。

また、その対策として、社会で自立できる力の育成をキャリア発達支援の観点からとらえ直し、学校教育活動を見直すことを目的とした、現在にも引き継がれる大きな流れを示すとともに、今後社会で生きていくために求められるものとして以下の点を示しました。

## 小学校段階から高等学校段階まで

- 小学校低学年から発達段階に応じた一貫した取組み
- 子どもたち一人ひとりが身につけた知識・能力を能動的に活用し、生き方を選択・決定できる力の育成
- 体験活動を通じて、将来の夢や希望を抱き、実現に向けて取り組む態度の育成

## 進路指導に関して

- 主体的に進路選択ができるよう、一人ひとりに応じた進路指導の充実

## 家庭・地域・企業に関して

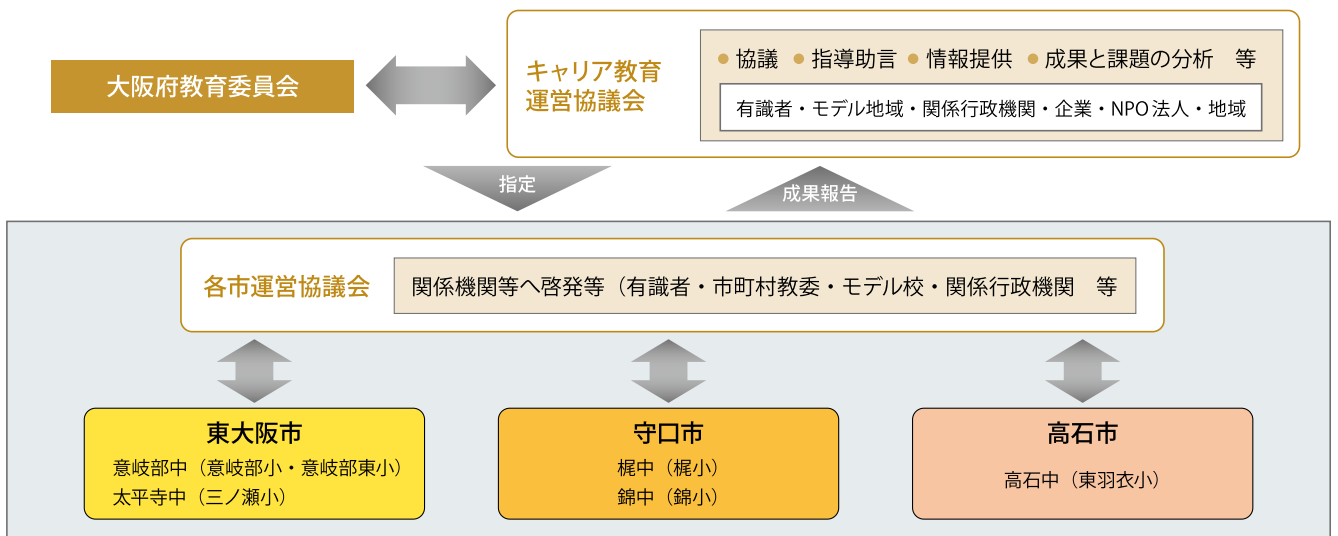
- 学校だけでなく、家庭・地域・社会の理解と参画による社会全体で子どもを育てる機運の醸成

さらに、小学校段階から高等学校段階まで一貫した系統的・継続的なキャリア教育の実施の柱として、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが例として提示していた「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(平成14年11月)をもとに、キャリア発達の視点から指導の充実をめざしてきました。

その後、平成21年度から、文部科学省「発達段階に応じたキャリア教育支援事業」として、小・中学校が子どもの系統的なキャリア発達を組織的・効果的に支援することをめざし、3市をモデル市として調査・研究を実施しました。

また、様々な専門家を迎えて構成した「大阪府キャリア教育運営協議会」の中で、モデル市の実践を分析し得られた成果を、大阪府として推進する方向性を示すものとして、平成23年3月に「大阪府キャリア教育プログラム」を策定しました。ここでは、キャリア教育を実施するためのPDCAサイクル全体の「Plan段階」と「Do段階」について示しました。

今後、PDCAサイクルを全中学校区で実施していくために、「Check段階」で活用できる効果測定の指標を示し、積極的に取組みを「Action段階」で改善できるようにするとともに、全ての中学校区で「めざす子ども像」を明確化し、再構築された全体指導計画の作成を目標にしています。



- 1 「現状分析」と「めざす子ども像」を全教職員で共有することの重要性
- 2 つけたい力を全教職員で共有することの重要性
- 3 全体指導計画を作成することの重要性
- 4 大人たちでつくる学びの環境づくりと地域連携の重要性
- 5 学びの環境づくりのための効果検証の重要性 (PDCAサイクル)

## 高石市

教職員一人ひとりがキャリア教育に対する理解を深め、その必要性を改めて認識するためキャリア教育研修会を実施した。また、小中合同でワークショップ形式の研修会を定期的  
に開催し、キャリア教育のプログラムの作成を進めている。さらに、中学校区でキャリア発達・  
キャリア展望に関するアンケートを実施し、児童生徒の実態を把握することにより、小・中  
学校で児童生徒の課題を共有し、めざす子ども像を「自他を理解し、自分の思いや考えを  
伝えることができる子ども」と定め、各校で実施しているキャリア教育につながる教育活動  
を整理するとともに、その目的を明確化することにより、全ての教育活動におけるキャリア  
教育の充実が図られた。

## 守口市

守口市においては、小・中連携を市の重点施策とし、以前から市として取り組んでいたが、  
本事業により、キャリア教育の視点を取り入れることによってさらに連携を進めた。研究協  
力校においては、小・中連携の一層の推進により、円滑な接続が実現し、いわゆる「中1ギャ  
ップ」という学校種間の段差が解消され、不登校生徒の減少にもつながった。また、教職員  
の意識改革と共通認識を深めることができたことも大きな成果である。

## 東大阪市

東大阪市は中小の製造業が多く、街全体でものづくりを児童生徒に広く伝えていく取組  
みが進んでいる地域である。指定校は、その地域資源も活用しながら、小学生段階から地  
元の工場への見学や、職業講話、周りの大人から生き方のモデル像を学ぶこと等により、  
早い段階から「職業」の幅を広げ、児童生徒の職業観の育成を進めるカリキュラムをつくり  
先進的に取り組んでいる。本調査研究では、キャリア教育カリキュラムをPDCAサイクルに  
より実施し、教育活動全体の活性化を図った。さらに、カリキュラムの実施にあたり、児童  
生徒の自尊感情や夢、希望を育む視点での評価についても研究を進めた。今後の予定とし  
て、今年度の取組み成果を検証し、来年度のキャリア教育計画のプランを考える。

また、教職員への研修も行い、東大阪市全体として「連携したキャリア教育」を定着さ  
せていきたいと考える。

### 参 考

		小学校						中学校区												
		1年			2年			3年												
子どもの 現状にお おいて変 更可能	自主 学習 の つ け か い	校区のめざす子ども像 別紙「めざす子ども像」参照 (再検討可)						(特徴的な学校内資源) 〈例〉教職員、PTA、ICT活用、生徒会(児童会)、運動場 など			(特徴的な学校外資源) 〈例〉地域人材、地域施設、地域活性化支援機構 など									
	活動 内 容	野菜となかよしになろう		けんかしてなかなおり		まちたんけん		1/2の成人式		職業体験学習		高齢者施設を訪問しよう		人権学習		職業体験		進路活動		
今 回 記 入	目 的	野菜の名前を覚え、関心を深める		助け合う関係を築く		様々な人とふれあい人間関係形成能力を育成する		命の尊さを感じ、将来の夢をはぐくむ		地域社会と密接関わりで自分の生き方について考える		他人への思いやりの心をほぐくむ		自分を知る、友だちを知る		職種、仕事の楽しさ、苦勞を知る		本名を名乗って卒業する		
	取 組 内 容	野菜を食べよう 野菜を観察しよう 野菜を育てよう 野菜パワーを知ろう		友だちとけんかをしたりの事を考える 仲直りの仕方を考える 野菜パワーを知ろう		手づくりまちマップをもとに校区探検の計画 地域探検 探検したことをグループで話し合う グループごとに発表		20歳の卒業生から話をきく 周りの人々への対「ユ」学級で将来の夢について話し合い		商店街見学・健忘取り 職業体験学習 宣伝活動 商店街へ出店		まちの高齢者の実態や取り組みについて話をきく 「働く」ことの楽しさを分かった 「働く」ことの大変さが分かった 自ら積極的に行動しようとする態度が出てきた		校外学習 障がい者体験学習 在日韓国・朝鮮人体験学習		職業講話 文芸座での報告(職業体験) 公民館展示(職業体験) 商店街販売(小学校)体験参加		校外学習 本名指導(在日韓国・朝鮮人教育)		自分のルーツに誇りを持って生きていく事ができるようになった
★ 補 足		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達段階の目標 . . . . . &gt; 発達段階に応じた習得目標</li> <li>○ つけたい力 . . . . . &gt; 9年間で「子どもにつけたい力」を整理し、能力を選択する(現状によって変更・追加をして頂いても結構です)</li> <li>○ 活動内容 . . . . . &gt; 活動のテーマ</li> <li>○ 目標 . . . . . &gt; 活動テーマに対しての具体的な目標</li> <li>○ 取組内容 . . . . . &gt; 具体的な取組の内容</li> <li>○ 子どもの変容 . . . . . &gt; 取組みによって子どもがどのように変わったか。(2月に記入・提出願います)</li> </ul>																		
		* 大阪府キャリア教育プログラムを参考にしてください。																		

# 3 キャリア教育をもっと知ろう

3

キャリア教育をもっと知ろう

キャリア教育って  
なんですか？

▶ 詳細はP3へ

キャリア教育って  
どんな効果  
がありますか？

▶ 詳細はP4へ

キャリア教育を  
支援してくれる  
人はいますか？

▶ 詳細はP4へ

キャリア教育って  
何から始めたら  
いいですか？

▶ 詳細はP8へ

キャリア教育って  
教科や特別活動等  
とのつながりは  
あるのですか？

▶ 詳細はP9へ



# 4 キャリア教育を進めるプロセス

キャリア教育を進めるプロセスを模式的にあらわすと、下図A～Eのようになります。地域によってどのプロセスが進んでいるか、あるいは力点が置かれているか異なるとは思います。すべての取組みの中心になるのが、「C.『めざす子ども像』の共有」や、「D.キャリア教育全体指導計画の作成・実践」です。これはキャリア教育に関わるすべての関係者の指針となるものです。そして、すべての取組みの出発点になるのが、「A.キャリア教育についての理解」です。

